

福島縣の幼稚園

氏 原 銀

本縣幼兒教育の實施は、其僻地にも拘はらず、

明治十八年十一月早くも、福島市に於て設置せら

れたり。爾來縣下各市町に漸次開設を見、現今其

數三十一に及べり。左に

公立に屬するもの五

福島幼稚園 桑折幼稚園 二本松幼稚園

猪苗代幼稚園 喜多方幼稚園

私立に屬するもの十七

梁川幼稚園 梁川中央幼稚園 郡山幼稚園

三春幼稚園 須賀川幼稚園 白河幼稚園

原町幼稚園 湯本幼稚園 小名濱幼稚園

若松幼稚園(分園二を有す) 會津幼稚園 會津保育園

坂下幼稚園 福島聖愛幼稚園 福島昭和幼稚

園 若松博愛幼稚園 若松聖愛幼稚園

幼稚園令によらず未だ認可を受けざるもの六

船引兒童訓遊園 小野新町兒童遊園 郡山保

育園 若松南町保育園 平町信榮幼稚園 平

町清風園保育園保育部

保育所(勞働者の子女を保育する所) 三

愛國婦人會福島支部幼兒保育所

郡山婦人會幼兒保育所 須賀川幼兒保育所

以上幼稚園二十八ヶ所 保育所三ヶ所 計三十一

何しろ本縣に早く保育に着眼者ありし事は、明治十一年、私がお茶の水幼稚園に見習在學の頃、未だ世人の幼稚園の何ものなるを知る者少き時代に於て、福島縣から保育見習志望者の出京ありし事を實に感心せり。此人歸國後開園の模様は如何なりしや、開園したとすれば、明治二十三年の頃ならんも、其時機早くして折角の事業も續くる事の出来ざりしものならんか、何事も、時機を相待たざれば成功覺束なきもので、此實例は昔時私が大阪市に於て遭遇した實驗を左に記します。

大阪府では明治十一年二月大急ぎで、お茶の水幼稚園へ私共を留學させ、翌明治十二年五月、園舎庭園を立派にこしらへて、府立幼稚園を他府縣に率先して開園す。之れ我國第二番目の開園なり（第一番の開園はお茶の水幼稚園）。其後二年間は無事なりしも、府會の協賛を得ず廢園の不幸とならしが、府當局之れを惜み、何か府の豫備金の利

子を流用して維持繼續されたるも終に、明治十六年七月俄然廢園の命に接し大に落膽す。之れ未だ時機早く、此國民基礎教育を解せざる府會議員の多數によるものなり。此廢園に付き其幼兒の他に入園する園なき時代であつたので、其父兄中の特志家七名、山口幸七、丸井佐助、島田覺人、松下淳道、樋口重郎兵衛、猪飼史郎、藤井秀齋の七氏出資して、私立幼稚園として之れを繼續するを得たる歡喜は例ふるに物なく、實に再生の思をなせり。然るに之れが經費は不十分の事とて、此保姆として私共姉妹は身を犠牲にし從事せし處、茲に機運到來す。時に明治十七年、文部省より學齡未滿の入學を禁じ成るべく幼稚園を設くべしとの訓令が出たので、諸所に幼稚園熱起り、大阪市に於ても各區競ふて設置の計畫を進め、此私立幼稚園も公立となつて國運を開くに至る。之れ現今大阪の多數幼稚園の盛況なる基礎となりたるものにて

此私立幼稚園が、明治十二年創立の府立幼稚園の命脈を繼續して其系統を傳へたるものと言ふべし。

さて前記福島縣下三十一の幼稚園並に保育所の保育者諸氏の會員として、毎年縣下各幼稚園所在地に於て交番に年一回、保育大會を開催して保育上の研究をなす。此有益なる保育大會は、明治四十四三年郡山市郡山幼稚園主松山政治氏の發起者として、縣下各園と連絡し第一回を郡山幼稚園に於て開催せるに創る。爾來毎年各地に開かれ昨秋伊達郡梁川町の會合に第二十回を重ねるに至りて益々隆盛に至れり。其會員諸氏は其國地方氣質なる堅忍誠實を以て従事せらるる事として、其成績優良に其保育大會に出席するに遠路宿泊がけの厭ひもなく、全員出席せられ其熱心の意氣は、會場に充溢の光景は、實視して感服する所なり。每會知名の教育大家を聘して有益の講演を聽き研究問題を議し研

究の發表をなし、斯道の爲にせられ益々發展を見る事は、其會員の熱誠と其團結力の堅きによるは勿論、又其幹部諸氏の努力によれるものにて、斯の如き保育の研究向上をはかる美舉は、實に東北地方の諸縣中心に見られざる誇りにして斯界の爲め感服慶賀する所なり。彼の我國保育界の第一位優勢なる、關西保育大會に次ぐの美事なり。今學期の更むる時に際し、本縣下熱心なる保育者諸氏の保育せられし幼兒の入學する者及新に入園幼兒の事を思ひ、茲に拙文を以て縣下保育狀況の概要を記るし併せて保育者諸氏の御健康を祈る。

尙縣下保育者諸氏は、其園所の經營上其他に付て、種々なる御苦心ありし事を推察す、之れ私の昔時三十年間保育者として屢遭遇せし處なり。諸氏は能く之れに打ち克ち奮勵せられし、御功績を感服し敬意を表す。